

# 第 20 回世界ビルメンテナンス大会報告書



2014年4月6日（日）～9日（水）

アメリカ合衆国・ニューヨーク

公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会

## 【会長挨拶】



### 世界ビルサービス連盟 会長 ルロイ・ドック LeRoy Dock

世界ビルサービス連盟の会長として、第20回世界ビルメンテナンス大会に皆様をお迎えすることは、私の特権ですね。

皆様は我々の組織にとって大切な会員であり、皆様が体験しようとしているのは、2年以上の努力をかけて招くことができた講演者や、業界の指導者によるプレゼンテーション、そして世界19ヶ国の同業者との交流であります。

これはまさに、世界連盟の一大行事です。

どうか、お互いの自己紹介に、時間をかけてみてはいかがでしょうか？

今大会によって、世界的な講演者と、魅力的な他の出席者によって、世界を“旅”することができるでしょう。

今大会は業界のイベントである一方で、本当の焦点は皆様自身にあります。よりよい経営者であるために、より良いリーダーであるために、よりよいビジネスを行うために、こんなに、学習をビジネスに還元できる機会がありますでしょうか？

私は、皆様が歴史的な世界大会に参加するこの機会を持てたことを、自負します。

そして、私は、皆様が何処で生活して、働いてきたか、如何にあなたの交流関係があなたのためになったかを聞くことが楽しみです。個人としても、可能な限り皆様と多くの時間を共有したいと思っています。

## ■大会概要■

1) 開催期間 2014年4月6日(日)～9日(水)

2) 開催場所 アメリカ合衆国・ニューヨーク  
(マリオット・マーキズ)

3) 大会テーマ 『Big Apple, Big Ideas』

4) 主な参加国

米国、英国、豪州、ニュージーランド、ドイツ、  
韓国、カナダ、ブラジル、アルゼンチン、メキシコ、日本等 約19ヶ国

5) 参加者数

約450～500名(うち日本52名)



## ■大会プログラム■

4月6日(日)

18:00～20:30 オープングレセプション

20:30～22:30 日本団結団パーティー(於;現地レストラン)



4月7日(月)

午前の部「未来はあなたが思うより明るい、あなたは準備できていますか?」

08:15～08:30 開会式(この中で厚生労働大臣メッセージが読み上げられた)

08:30～09:30 基調講演(ピーター・ディアマンディス)

09:30～10:15 基調講演(スティーブ・フォーブス)

10:45～11:30 質疑応答

11:30～12:15 セッション「技術の今日と将来」

午後の部「今日の戦略、技術、今後の技術革新」

- 13 : 45 ~ 15 : 00 パネルディスカッション  
15 : 30 ~ 16 : 30 セッション「ファシリティ業界の未来」「資金の増大・提供」  
18 : 30 ~ 20 : 30 スポンサーレセプション (ケルヒャー・ディバーシー)

#### 4月8日(火)「労働、人的資産」

- 08 : 15 ~ 10 : 00 基調講演「good から great に」(ジム・コリンズ)  
10 : 45 ~ 11 : 30 セッション「未来の新しい働き方と職場」(ISS)  
11 : 30 ~ 12 : 00 セッション「我が産業への1つの提言」  
12 : 00 ~ 12 : 45 セッション「夢の経営者」

#### 4月9日(水)「健康・清潔のため清掃」

- 07 : 45 ~ 08 : 30 セッション「30歳以下従業員の動機付け」  
08 : 30 ~ 09 : 30 基調講演「次世代のパンデミック」(リチャード・ベーカー)  
09 : 30 ~ 10 : 30 基調講演「清掃の価値」(ディバーシー社)  
10 : 50 ~ 11 : 50 セッション「“しかし”からの脱却」  
11 : 50 ~ 12 : 30 閉会式(会長引き継ぎ式)  
18 : 30 ~ 19 : 30 カクテルパーティ  
19 : 30 ~ 22 : 00 ガラディナー

## ■会議メモ■

WF B S C (World Federation of Building Service Contractors;世界ビルサービス連盟)の第20回世界大会は、去る4月6日(日)~9日(水)、アメリカ合衆国ニューヨークのホテル・マリオットマーキーズで開催された。

ニューヨークのど真ん中、ブロードウェイのまぶしいネオンの海のただ中で開催されたアメリカ大会は、そのテーマを”Big Apple, Big Idea”とした。’Big Apple’は、言うまでもなくニューヨークの愛称、1920年代に生まれたようだが、本格的に観光やイベントなどで使われ始めたのは、1970年代と言う。今回の世界大会のテーマとしては、まさにぴったりはまる名称と言えるだろう。

そして、’Big Idea’は、上記プログラムの通り、4つのサブテーマで表現した。大会案内には3つの’Big Idea’として、①Strategy(戦略)、②Health(健康)、③People(人)が上げられていたが、ほぼそれに沿った内容の講演とパネルディスカッションが組まれた。

最初のBig Idea、Strategy(戦略)には、ビッグネームが並んだ。初日の基調講演者は、Xプライズ財団の創設者であり会長のピーター・ディアマンディス氏とフォ

ーブス メディア編集長のスティーブ・フォーブス会長のお二人。また、翌8日には、ピーター・ドラッカーの後継者とみなされているベストセラー作家ジム・コリンズ氏である。日本では「知っている人は知っている」のであろうが、多分アメリカではちょっとサプライズの人たちが並んでいるのではないかと思われる。

ダイヤモンドが何者なのか、なかなか正体がかめれないが、アメリカでなければ成り立たないような経歴の持ち主と思われる。「社会起業家」と言われるそうであるが、要するにビジネスの手法をとって社会貢献する人を意味しているようである。彼の場合は宇宙開発が社会的な仕事であり、X賞を設けてお金を集め、お金を投資する人々は宇宙開発に何かの経済的見返りを期待するというわけである。『楽観主義者の未来予測』という邦訳本が出ているが、題名どおりなのかもしれない。

氏は語る。現在の進化は「1, 2, 3, 4…」ではなく、「1, 2, 4, 8…」。

21世紀中頃には、人間能力をテクノロジーが超えてしまうかもしれない。ロボットが人間より元雄安全・快適に車を運転する。クレイジーと思われる挑戦が続くであろう。

スティーブ・フォーブス氏は、言うまでもなく経済専門誌『フォーブス』のオーナー権編集長。『フォーブス』誌は日本を含め世界各国で発行されているが、他の雑誌同様、紙媒体は広告料収入が落ちて苦況にある。しかし、フォーブスの場合は、デジタル化が成功、Forbes.comの月間訪問者数はこの3年間で1200万人から2600万人へと2倍以上に増加したと言う。フォーブス氏は、フォーブス社の三代目であり、今後デジタル戦略の行方が分かれ道になると言われている。

スティーブ・フォーブス氏は、その経歴を彷彿とさせるように、金融政策の原理・原則論にも分かりやすく触れながら、アベノミクスも含めて世界の金融・財政・税制問題に対する考えを披露した。

さらに、ジム・コリンズ氏は、ドラッカーとの初めての出会いを語るように、自らドラッカーの弟子・後継者を任じているのかもしれない。いま、アメリカでは彼をそのように言う人も多いという。ドラッカーがコリンズに尋ねた。「君は永続するマネジメント思想をつくりたいのか？ それとも、永続するコンサルティング会社をつくりたいのか？」、私たちがドラッカーを学ぶときの「目的」と「手段」の好事例がここにある。

ジム・コリンズ氏は、南極到達競争におけるアムンゼン隊とスコット隊の成功・失敗の例を引きながら、振幅の大きな対応が危険であるように、企業の成長も長く一定の成長を続けていく安定感のある成長こそ重要だと述べた。その成長は、一貫した戦略に裏打ちされた結果であり、長期間、抑制の効いた戦略の賜物である。会社は病気にかかっているのでは？ 心配を持ち続け、早いうちに芽を摘むこと、やることではなく、やらないことを決める難しさ、自らを律すること、自己規律を効かせて一定の

成長を続けていくこと、このとき会社は優良の段階から偉大なものへの転換を図れるのである。

※ ※ ※ ※ ※

2番目のビッグ・アイデアは、Health（健康）である。ここでもビッグネームが登場、4月9日（水）最終日の朝に登壇したリチャード・ベッサー医学博士である。講演タイトルは「The Next Pandemic」。博士は、CDC（米疾病対策センター）でSARSやインフルエンザなどの感染症、パンデミック対策、さらにテロリズムなど、緊急対応活動等の責任者を務めていた。そして、2009年からABCニュースの健康及び医療分野の編集責任を務める人気キャスターでもある。博士は、特にパンデミック対策に詳しく触れながら、感染症に対する清掃の重要性を説いた。

世界連盟は2011年に『健康のための清掃』報告書を発表し、今後の業界において優先課題のひとつとして取り組むこととしている。清掃は、感染症の脅威に対する第一の防波堤である。日本においてもかつて、インフルエンザによるパンデミックが騒がれたとき、私たちの清掃という仕事について、公衆衛生上の問題を深く考えさせられたところである。長年続けてきた病院の清掃受託責任者講習では、メディカルの講師から、清掃の重大性が強調されている。

3番目のビッグ・アイデアは、People（人）である。4月8日昼、グスタボ・グロドニツキー氏は「Y世代」について語った。グロドニツキー氏は、心理学の博士、Y世代の研究を専門としている。いま、アメリカにおいてこれまでにはない感覚を持つ新しい世代が労働市場の主要な働き手となり、その管理がひとつの研究対象となり、経営手法となっているようである。

Y世代とはアメリカベビーブーマー世代（1945年～1959年生）のジュニアたちである（1975年～1989年生）。日本の団塊ジュニアと重なっているが、年齢層はもっと分厚い。生まれながらIT技術に囲まれ、勢いの良い経済発展に恵まれない世代なのである。この世代は、親たちの「仕事第一」で生活を組み立てるのを嫌う。労働時間は長くとも、自由な働き方、フレキシビリティのある働き方を好むのである。したがって、その労働管理は難しい。画一的には行かないのである。

次に講演の壇上に立った女性CEO、メアリー・ミラー氏（JANCOA清掃サービス社）は、「ドリーム マネジャー」という従業員の意識付けのプログラムを紹介した。個人の夢を追求するように社員を鼓舞する、その結果として従業員のモチベーションを引き出していく。従業員は自分の夢を認識し、それらの夢を達成するために

実際の行動の手順を実行することを勧める。「ドリーム マネジャー」はニューヨークタイムズのベストセラーになっているという。

大会は、著名な講演者の話を集めて、3つのビッグアイデア（戦略、健康、人）として押し出した。ビッグネームが並んだばかりに、地に足が着いてない不安も感じられる。世界のビジネスを牽引するアメリカの自負は、十分に感じられる大会であった。しかし、真にそうであるのかは、今後の歴史が決定して行くであろう。アメリカ社会には、華やかな世界の裏に影も宿している。光がまぶしい分、影もまた濃い。

※ ※ ※ ※ ※

大会は、4月7日～9日まで3日間続いたビジネスセッションの前、4月6日のオープニングレセプション、7日朝の「歓迎式」で参加者を迎えた。全て会場はマリオットマーキーズである。

その「歓迎式」で田村憲久日本国厚生労働大臣のメッセージが、アメリカ大会に対して贈られた。英語で流暢に読み上げたのは、公益財団法人日本建築衛生管理教育センターの篠崎英夫理事長である。その内容は、以下のとおりである。

### 《日本国厚生労働大臣メッセージ》

日本国 厚生労働大臣 田村 憲久

第20回世界ビルメンテナンス大会がここアメリカ合衆国・ニューヨークにおいて盛大に開催されることを心からお慶び申し上げます。また、私のメッセージを本日ここにお集まりの皆様、さらに世界各国でビルメンテナンスサービスに携わる方々にお伝えできることを大変光栄に存じます。

昨今、世界経済のグローバル化、都市の発展、建築技術の進歩等に伴い、ビルの数は増加し、その高層化、大規模化が世界各国において一層進んでいると思います。さらに、こうしたビルの中で活動する人の数も増加の一途をたどっております。

建築物を取り巻く変化に対応しつつ、ニーズに応え、快適かつ安全な環境を確保することは、そこで活動する人々の健康を守るために不可欠であり、ビルメンテナンス業の果たすべき役割もますます重要になってきております。

日本国では、1970年にビルの衛生管理に関する法律が制定されて以来、ビルメンテナンスサービス業の方々のたゆまぬ御尽力により、ビルの環境衛生水準が良好に保たれてきております。

この大会において、各国のビルメンテナンスサービスに携わる方々が一堂に会され、それぞれの知識や経験を共有し、また、友好の輪を広げられることは、ビルメンテナンス業界の発展にとって、大変意義深い機会だと思います。

次回の第21回大会が日本で開催されることが決定したと聞いており、皆様の来日を心から歓迎します。皆様に日本のビルメンテナンス業の優れた技術やサービス、システムを実際に見ていただくとともに、日本の文化や伝統にふれていただくよい機会となることを願っております。

この大会のご成功と世界のビルメンテナンス業界のますますのご発展、そしてお集まりの皆様の今後ますますの御活躍をお祈りし、私の挨拶といたします。



### 《閉会式／会長引き継ぎ式》

さて、閉会式（会長伝達式）は、全てのセッションが終了した4月9日の午後に拓かれた。まずは、WFBSCの役員及び加盟国の理事が壇上に呼び上げられ、連盟の仕事を全うすることの宣誓が行われた。





その後、アメリカのリロイ・ドック会長から日本の一戸隆男会長に、世界連盟会長のバトンが引き継がれた。ドック会長の首にかけられたネックレス（これまで会長を務めた方々の名前を印したプレートが繋がれたネックレス）がはずされ、一戸会長の首にかけられた。

次回の世界大会は日本である。これから2年間一戸会長は世界連盟の仕事に携わることになる。現在のところ、日本大会は東京・有楽町の「東京国際フォーラム」を主会場に開催される予定である。日程は2年後、2016年4月4日～7日としている。ニューヨークで派手な大会を見せられたが、日本では、日本らしい落ち着いた実のある大会にしていくことが求められる。



## 【新会長就任挨拶】



Dock会長、そしてDoobinさん、ニューヨークの中心で開催された華やかな大会をご提供いただき、ありがとうございました。世界各国から数多くの方々にお集まりいただき、心より感謝申し上げます。私はジャパン・ビルディング・メンテナンス・アソシエーションで会長を務めております一戸隆男と申します。

これから2年間、世界連盟の会長として、任務を全うしていくことを誓います。

今後、世界連盟の魅力作りに取り組み、加盟国を増やしていかなければならないと思っております。このほどメキシコの協会が加盟されました。また、東南アジア諸国への働きかけも進めております。

世界大会は、ニューヨークから舞台を東京に移して、2016年に開催されることになりました。今度は、私たち日本の仲間が、お迎えをいたします。開催日はちょうど2年後の4月4日からです。

日本はいま、桜が満開です。日本人の多くが、寒い冬から暖かな春への自然の移ろいを、桜を眺めながら実感いたします。心浮き立つ、美しい季節を、大会の時期に選びました。会場は、東京駅からすぐ近くの「東京国際フォーラム」です。この国際会議場は、皇居にも至近距離にあり、また、東京の中心街「銀座」にも徒歩で行けるようなところです。

私たちの仕事が、国民に「安全・安心」や「衛生・清潔」を提供するものであり、それは国の「文化」と密接に結びついているとも言えます。大会の内容は、まだ検討中ではありますが、この「文化」をテーマに選びたいと思っております。

私たちの直接の顧客は、仕事を発注する建築物の運営・管理者ですが、エンド・ユーザーは建築物を利用する大勢の国民であり、その国民を満足させることができなければ、直接の顧客も満足させることはできません。国民に最高の「安全・安心」、「衛生・清潔」を提供し、高レベルの文化的生活を創り上げることこそ、直接の顧客に利益を、建築物利用者に満足を与えることにつながっていると思います。

ここにご参会の皆様申し上げます。日本の最高の季節をお楽しみいただき、私たち業界もその一端を担っている日本の「文化」に触れていただければ幸いに存じます。

2016年4月、私たち日本の仲間は、皆様のお越しを大歓迎いたします。

ありがとうございました。

世界ビルサービス連盟 新会長 一戸 隆男

<参加者名簿>

1	一戸 隆男	興和ビルメンテナンス株式会社
2	一戸 千恵子	興和ビルメンテナンス株式会社
3	一戸 曹佑	興和ビルメンテナンス株式会社
4	篠崎 英夫	公益財団法人 日本建築衛生管理教育センター
5	篠崎 レイコ	
6	本多 清治	中日コプロ株式会社
7	鴻 義久	株式会社 ハリマビステム
8	鴻 信子	株式会社 ハリマビステム
9	狩野 伸彌	太平ビルサービス株式会社
10	狩野 和子	太平ビルサービス株式会社
11	男澤 公人	太平ビルサービス株式会社
12	畔上 敏	太平ビルサービス株式会社
13	入江 建久	公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会
14	櫻井 和久	日興美装工業株式会社
15	片山 安茂	日本環境マネジメント株式会社
16	片山 福根	日本環境マネジメント株式会社
17	牛村 憲由	株式会社 大清社
18	古賀 健一	株式会社 大和研装社
19	梶山 龍誠	株式会社 ビケンテクノ
20	梶山 孝清	株式会社 ビケンテクノ
21	久保 猛志	金沢工業大学
22	久保 国愛	
23	中村 哲	株式会社 四国環境管理センター
24	麻生 正紀	株式会社 シルバーライフ
25	里見 貴弘	株式会社 シルバーライフ
26	人見 嘉伸	株式会社 大健
27	鈴木 晴子	株式会社 敬隣舎
28	當山 全信	株式会社 沖縄ダイケン
29	加藤 正男	株式会社 東北ダイケン
30	金子 誠	株式会社 朝日ビルメンテナンス
31	伊藤 英明	株式会社 盛岡総合ビルメンテナンス
32	諸岡 威之	アポロビルサービス株式会社
33	佐々木 浩二	株式会社 ジャレック
34	大山 進	テスコ株式会社 つくば支店
35	坂口 哲也	株式会社 坂口ビルクリーン
36	坂口 真澄	株式会社 坂口ビルクリーン
37	山田 春雄	株式会社 ベリージャパン

38	山田 恭子	株式会社 ベリージャパン
39	ルイス 陽子	株式会社 慶和
40	三橋 一夫	株式会社 三橋商会
41	三橋 邦子	株式会社 三橋商会
42	前川 昭子	株式会社 三橋商会
43	中川 満	株式会社 ニュービルディングシステム
44	木戸 務名	株式会社 三愛美装センター
45	森永 幸次郎	株式会社 セイビ九州
46	川鍋 一郎	株式会社 クリーン工房
47	松本 歩	株式会社 クリーン工房
48	江頭 高広	株式会社 クリーン工房
49	張替 智子	株式会社 クリーン工房
50	興膳 慶三	公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会
51	堀口 弘	公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会
52	伊林 泰佑	公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会

<敬称略>

※ 順不同



## 【御 礼】

公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会

会長 一戸 隆男

このたびは、第20回世界ビルメンテナンス大会において、日本代表団にご参加いただき、誠にありがとうございます。

皆様無事に帰国され、誠に喜ばしい限りでございます。心より感謝を申し上げる次第です。

日本代表団の皆様は50名を超え、大会期間中の皆様方の絶大なるご協力により、今大会も、成功裡に幕を閉じることができました。

さて、いよいよ次回2016年、第21回大会は、我々日本での開催となります。

日本での開催は、過去、1982年の第3回大会と、1992年の第9回大会に引き続き、3回目の開催となります。

また、大会開催に合わせて、身に余る大役ではございますが、このたび、世界ビルサービス連盟（WFBSC）の新会長を、拝命致しました。

そして、全国ビルメンテナンス協会は、2016年に創立50周年を迎えます。

2年後の2016年の大会では、現在取り組んでいる「協会経営戦略」の成果を具現化する絶好の機会と捉え、「豊かな暮らしを創るビルメンテナンス&ビルクリーニング」をテーマとし、「ビルメンテナンス産業の事業目的は何か？」について、世界の皆様と一緒に考えていきたいと存じます。

はなはだ微力ではございますが、全国協会会長、世界連盟会長として、世界中のビルメンテナンス業界の代表という立場で、職務に専心努力して参りたく存じますので、引き続き、ご指導とご支援を賜りますよう、何卒、お願い申し上げます  
末筆ではございますが、まずは略儀ながら御礼かたがたご挨拶申し上げます

2014年4月